

日商簿記 1 級&全経上級ダウンロード講座

工原 No.2【費目別計算】

収録日：平成 25 年 6 月 23 日
レジュメ改訂日：平成 26 年 1 月 5 日

中央経済社のテキスト読んでいるところは、レジュメ 5 ページ以降の参考を参照して下さい。
18分までは当レジュメ P 5 以降を参考にしながら動画を見て下さい

【出題実績】 日商簿記 1 級過去問 131 回組別総合原価計算、
全経簿記上級過去問 158 回費目別計算、167 回貸金勘定の処理、168 回（部門別含む）

材料副費の論点を整理しよう（18分あたりから）

外部副費（外部の会社に支払う費用－把握しやすいので実際配賦が多い）
内部副費（社内経費の振替－把握しにくいので予定配賦のケースが多い）

期首

期末

STEP 1 予算決定 STEP 2 予定配賦率 STEP 3 予定配賦額 STEP 4 実際配賦（差異認識） 決算 原価に加算

STEP 2

予定配賦率の計算
例 30%

STEP 3

予定配賦額で仕訳

材料 10,000 + (購入代価 × 30%)

材料 13,000 / 買掛金 10,000
材料副費 3,000

STEP 4

実際配賦

差異仕訳の前に下記の仕訳あったと考えます

支払運賃 2,200 / 現金 3,300
検収費 1,100

材料副費 3,300 / 諸口 3,300

差異 300 / 材料副費 300

決算

売上原価 300 / 差異 300

独学者応援 無料講座はここまでと話しています

<このページは有料講座のみの解説となります>

棚卸減耗費（まずはレジюме P 6 を参考に動画を確認して下さい）

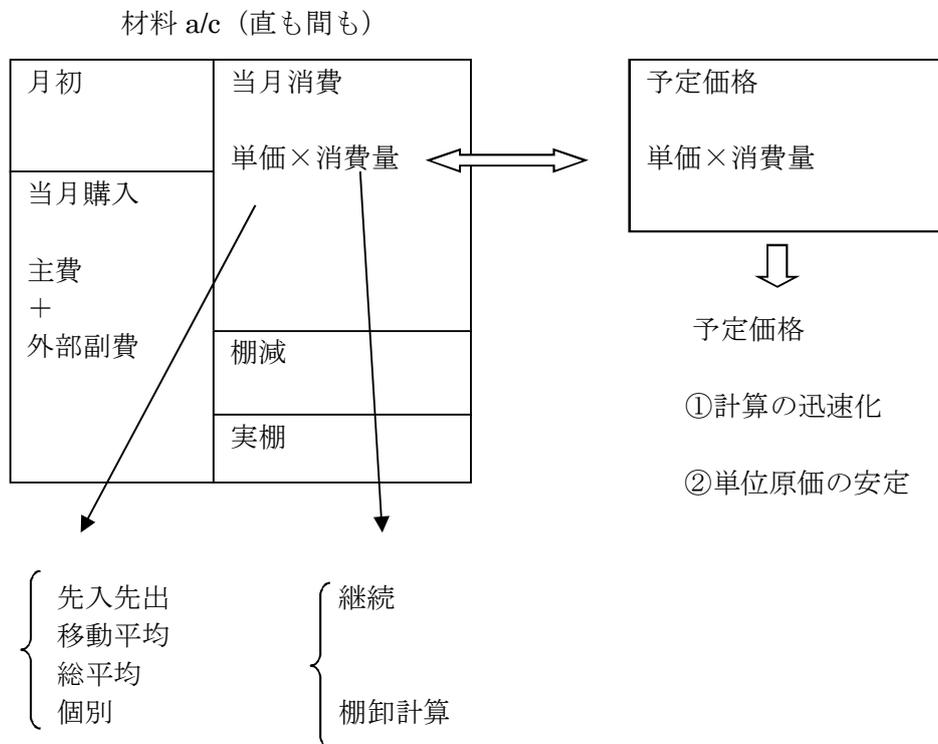
保管過程での材料の消失であり、製造工程での消費ではない

∴仕掛品ではなく、製造間接費

FIFO での棚卸減耗費は最後に仕入れた単価（月末@と同じ単価）で計算

予定価格採用時でも実際価格で計算（予定価格は消費時に使用・・・減耗は消費とは考えない）

材料勘定のまとめ方



内部副費 → 間接費へいくケース有り

例題 3-1（レジюме P-6 に例題掲載しています）を解いてみよう
問題解き時間 10 分

<一有料講座ここまで>次ページの労務費は無料で公開しています

費目別計算②（労務費）

給料明細書イメージ

基本給	300,000	控除	100,000	作業に直接関係あり
危険手当	100,000	差引支給	360,000	
家族手当	30,000			作業に直接関係なし
住宅手当	30,000			

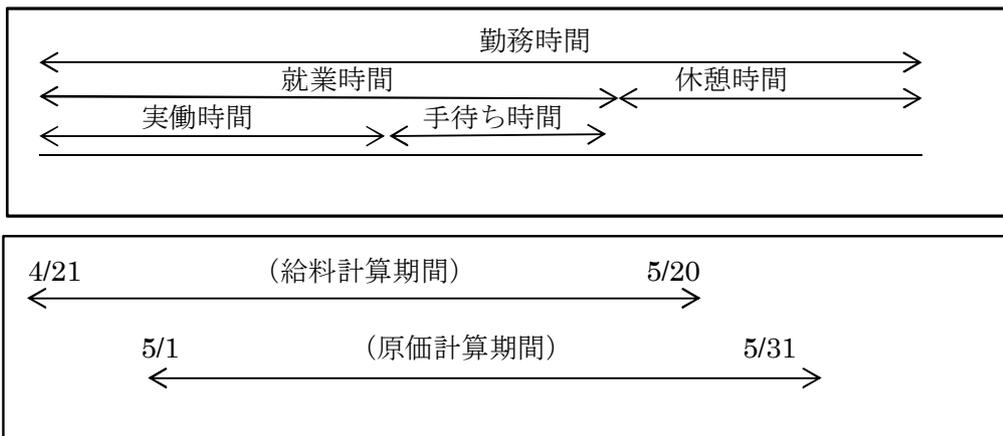
賃金	400,000	現金	360,000
従業員諸手当	60,000	預り金	100,000

仕掛へ
製造間接費へ

労務主費：賃金・給料・雑給・加給金・従業員賞与・家族手当
 労務副費：休業手当・法定福利費

直接労務費：直接工の直接作業時間（段取り時間含む）・・・単価×時間で計算
 間接労務費：上記以外（直接工の手待ち時間も含む）・・・要支払額で計算

直接工の時間計算方法は各テキストの図（中央経済社 P47、サク P77、スッキリ P63）を参考にしてください。（その他のテキストにも下のような図が掲載されているはずですが）



記帳方法は読んでいますが、あまり気にしないで結構です（19分 25秒くらいから）。

消費賃率の計算（間接工の消費賃率は通常計算しない）

直接工賃金（直接作業分+間接作業分）

就業時間（直接作業+間接作業+手待）

定時間外作業手当の計算

<例題>

直接工の予定賃率 900 円

直接工の作業時間・不動時間の要約	
直接作業時間	: 1,400 時間
間接作業時間	: 300 時間
正常手待時間	: 100 時間
合計	: 1,800 時間

直接工の出勤票の要約	
定時間内作業	: 1,720 時間
4/1~20	1,200 時間
4/21~30	520 時間
定時間外作業	: 80 時間
4/29,30	80 時間
合計	: 1,800 時間

当月（10月）の直接工への賃金支払額は 1,520 千円、9 月末未払額は 450 千円、10 月末の未払額は予定賃率で計算する

定時間外作業手当は、その時間数に予定平均賃率の 50% を乗じて計算する

（未払額の計算）

$$600 \text{ 時間} \times 900 + 80 \text{ 時間} \times 900 \times 0.5 =$$

給料明細書		
基本給	1,520	税金 100
時間外	36	社保 100
(0.5)		
差引支給	1,356	

賃金		}	予定消費 1,656
1,520	450		
	直接 1,260		
	間接 360		
540			
差異 10			
36			
	36		

予定配賦 仕掛品 1,260 / 賃金 1,656
製造間接費 396

実際配賦額 $1,520 + 540 + 36 - (450) = 1,646$

差異 賃金 10 / 差異 10

全経（工業簿記）167 回にチャレンジしてみてください（解説はありません）

(参考)

学習のポイント

- ①工場でかかったありとあらゆる原価を材料費・労務費・経費に分類する
- ②次に直接費と間接費に分類する
- ③材料の購入原価＝購入原価＋材料副費
- ④材料在高帳の記帳方法には継続記録法と棚卸計算法がある
- ⑤直接工賃金と間接工賃金の計算の仕方を理解する
- ⑥経費の計算方法も理解しよう
- ⑦予定価格使用時の差異の計算方法および期末の会計処理も理解しよう
(補講の標準原価計算の期末会計処理で学習して下さい)

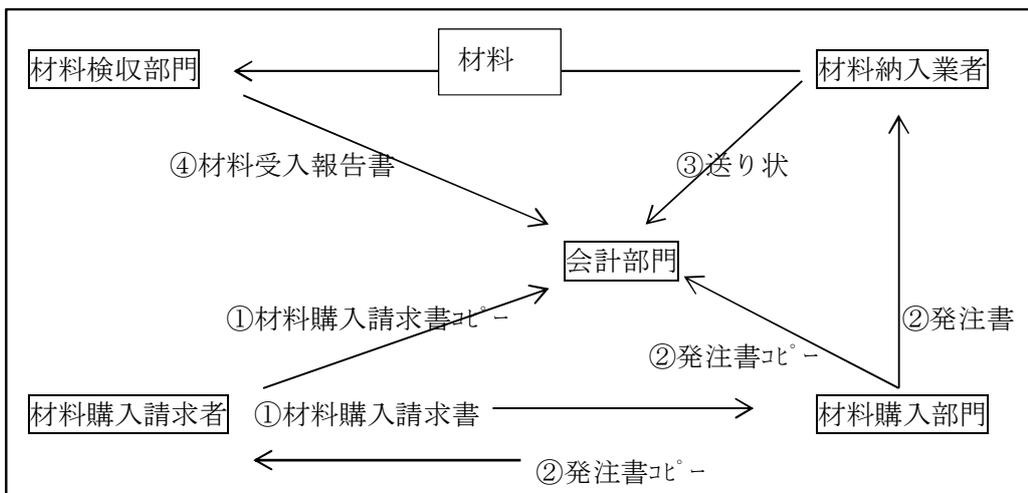
<材料費>

直接材料費：主要材料費・買入部品費

間接材料費：補助材料費・工場消耗品費・消耗工具器具備品費

図表 3-1 材料購入と記帳の手続き図

<中央経済社「検定簿記講義」工業簿記・原価計算 平成 25 年度版 P 39 を参考にしました)



<材料副費の論点>

材料副費：

外部副費→引取費用（購入手数料、引取り運賃、荷役費、保険料、関税）

内部副費→保管費用（購入事務費、検収費、整理費、保管費）

原価計算基準での、副費の取扱い

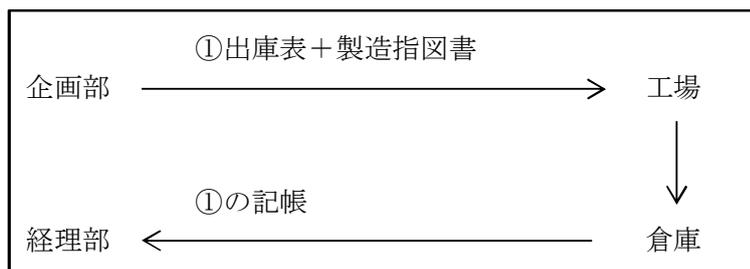
購入原価＋

- 1.引取り費用
- 2.引取り費用＋その他材料副費
- 3.材料副費予定配賦額

ここからはレジュメ P 1 に戻って 18 分以降の動画を確認して下さい

費目別計算②（材料費）の動画 2分 30 秒の内容

図表 3-2 と話しているのは、こんな感じ



<例題 3-1>動画では「特殊仕訳帳の帳簿」といっていますが、仕訳を考えましょう

下記資料より、仕訳をなさい（A、Bとも評価損は発生していない）

A製品

月日	摘要	数量 (kg)	単価 (円)
4/1 日	前月繰越	100	@80
2 日	掛仕入	200	@85
3 日	出庫 (#100)	200	
15 日	掛仕入	300	@88
20 日	出庫 (#100-R)	150	
22 日	社内使用のため出庫	50	
25 日	掛仕入	100	@90
28 日	出庫 (#200)	200	
30 日	帳簿在庫高	100	
	実地棚卸高	90	

予定価格@85円で処理している。実際消費価格は先入先出法で把握している。

掛仕入 (例 4/2) →材料 17,000 / 買掛金 17,000

出庫 (例 4/3) →仕掛品 17,000 / 材料 17,000

社内使用 (例 4/22) →製造間接費 4,250 / 材料 4,250

棚卸差額 →製造間接費 900 / 材料 900

差異計上 →材料消費価格差異 400 / 材料 400

B製品

月日	摘要	数量 (kg)	単価 (円)
4/1 日	前月繰越	40	@30
12 日	社内使用のため出庫	20	
15 日	掛仕入	160	@35
25 日	社内使用のため出庫	170	
30 日	帳簿在庫高 (実地も同じ)	10	

総平均法による実際消費価格で計算している

仕訳は上記と同じ